

4



2



3



1



5

【表紙上】 つきしま (築島物語絵巻) 2巻 (下巻部分) 室町時代 16世紀

【表紙下】 絵入本 かるかや 2帖 (下巻部分) 室町時代 16世紀 サントリー美術館蔵

1. 大津絵 長刀弁慶 1幅 江戸時代 17世紀後半 - 18世紀前半

2. 藍染川絵巻 1巻 (部分) 室町時代 16世紀

3. 丹緑本 つきしま 1冊 江戸時代 17世紀

4. 十王図屏風 4曲1隻のうち第4扇 江戸時代 17世紀

5. 新當流剣術秘伝書 1巻 (部分) 江戸時代 1644年

※記載のないものは日本民藝館所蔵 ※会期中、展示場面の変更を行います



展覧会公式図録
日本民藝館 編 つきしま かるかや - 素朴表現の絵巻と説話画
A4横版、並製本。「つきしま」「かるかや」全場面と主要出品作を掲載。
山下裕二氏 (明治学院大学教授)、矢島新氏 (跡見学園女子大学教授) 寄稿。

月曜休館 (ただし祝日の場合は開館し、翌日休館) / 10時 - 17時 (入館は16時30分まで) / 入館料・一般1,000円 大高生500円 中小生200円 / 〒153-0041 東京都目黒区駒場4丁目3番33号 / 電話番号・03-3467-4527 / 交通・京王井の頭線駒場東大前駅西口から徒歩7分 / 西館公開日 (旧柳宗悦邸)・会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜日 (入館は16時まで)

日本民藝館

<http://www.mingeikan.or.jp/>



6月11日(火) - 8月18日(日)

— 素朴表現の絵巻と説話画

つきしま かるかや

日本民藝館
<http://www.mingeikan.or.jp/>



そがものがたりびょうぶ
曾我物語屏風（部分）
6曲1隻 江戸時代 17世紀



でんどうだいほっし いそうみょう
伝燈大法師位僧明（部分）
1冊 鎌倉時代 1288年



じゅうおうずびょうぶ
十王図屏風（部分）
8曲1隻 江戸時代 17世紀

日本絵画史上、素朴美の極みに達したといえる室町時代の絵巻「つきしま」（築島物語絵巻、日本民藝館蔵）と絵入本「かるかや」（サントリー美術館蔵）。従来これら中世の素朴な画風の説話画類は、絵画史においてそれほど重視される存在ではありませんでした。当館創設者の柳宗悦（1889–1961）は、早い時期にこれらに注目した一人です。日本民藝館が開館する1年前の1935年のこと、「表がぼろぼろで粗末にされていた」状態だったという絵巻を眼にした柳は、その類い稀な美しさに驚嘆し、直ちにそれを購入します。調査の末、その物語が平清盛の経ヶ島築島の説話「築島物語」であることを突き止め、自ら編集にあたった雑誌『工藝』63号（1936年）を「つきしま」の特集号とし、「こんなにも無法に幼稚に描かれながら、「まがひもなく美しい」「画境」を持ったものと評し、極めて高い評価を与えています。

一方、絵入本「かるかや」は、柳とも親交があった国文学者の横山重（1896–1980）により、1950年代に見出されました。在野の国文学者であった横山が蒐集した中近世の優れた稀覯本類は「赤木文庫」として知られていますが、当館が所蔵する物語絵巻や丹緑本などの善本も、横山を介して所蔵に至ったものが含まれています。「苺萱」は、苺萱道心とその子石童丸の哀切極まりない物語として知られ、本展出品作は、近世に版本として刊行される以前の、現存最古の絵入本と推定されています。画風は室町期の素朴絵の中でも特異であり、特に筆を替えて描いたと思われる高野山の荒々しい山様の筆跡は、他に類を見ないものです。

本展は、これらの二つの説話画を軸に、お伽草子を題材とした絵巻や丹緑本、「曾我物語屏風」などの物語絵、大津絵や記録絵巻、十王図を始めとする仏教説話画など、柳宗悦蒐集による館蔵の素朴表現の絵画を中心に展示紹介するものです。

近年このような絵画類は、「素朴絵」として高く評価されつつあります。当館が蔵する絵画群は、多くがこの素朴絵の系譜に連なるものですが、その中でも「素朴」を意識して描いたものではなく、無作為のままに生まれた、天然で無垢な画風のものも多く集められているのが特徴でしょう。これらはもともと、上手く綺麗に描くことを目的とせず、物語の内容を説明するために添えられた挿絵であったり、祭礼の行装や技芸の奥義などを記した記録画であったりしたために、自然と無作為の画風が生じたものと考えられます。

これらを未熟で野卑な表現とみなすのは容易ですが、柳が「端々しい美しさ」と評したように、類い稀な美を持つものと見る視点があれば、一転して肯定的な価値を持つものへと変容します。本展出品の素朴表現の絵画群は、中近世という古い時代に描かれたものですが、現代において、より大きな意味を持つものに思われてなりません。

記念講演会 素朴絵と柳宗悦
（講師）矢島 新（跡見学園女子大学教授）
日時・7月27日(土) 18:00–19:30 料金・300円（入館料別） 定員・100名（要予約）

展示室 1 階

〔玄関〕日本の磁器 — 染付・色絵

日本の磁器は江戸時代前半、呉須（コバルト顔料）で絵付をした肥前有田の染付（伊万里焼）に始まり、その後、赤や黄、緑などの色を付けた色絵が登場します。当館が所蔵する初期伊万里の優品に、初期赤絵や古九谷様式などの色絵磁器を交え、穏やかな文様が魅力の日本の磁器を紹介します。

〔第1室〕日本の陶器

当館所蔵の日本の陶器は、九州や東北、関東信越の諸窯・丹波・瀬戸等、各地で生産されたものです。主に民衆の普段使いに供した品々で、民窯と呼ばれた窯場で生まれました。それらは、自然の恩恵を深く受けた材料や手法を用い、健やかで豊かな美しさを宿しています。

〔第2室〕中国の磁器

当館が所蔵する中国磁器の中核をなすのは古染付・天啓赤絵と呼ばれる器です。共に明代末期の天啓年間頃に、景德鎮窯で生産されました。両者とも粗製白磁を使用し、渋く沈んだ呉須を基本に用いて、山水・人物・動物・草花・幾何文等を生き生きと描いています。

〔第3室〕日本の染色

白生地に植物や吉祥文様などを染めた布は人々の晴や褻の暮らしを彩りました。民間で用いたものの多くは藍で染められています。筒描や型染の衣裳をはじめ、夜着、唐草夜具地、絞り染衣裳など19世紀の染物を中心に展示します。素材、色、模様をお楽しみください。

展示室 2 階

〔大展示室〕〔第3室〕

つきしま かるかや — 素朴表現の絵巻と説話画

大展示室では、「つきしま」を始めとするお伽草子絵巻や曾我物語屏風などの屏風絵、記録絵巻などを展示。第3室では、「かるかや」を中心に、十王図屏風などの仏教説話画を展示する特別展です。

〔第1室〕朝鮮半島の陶磁器

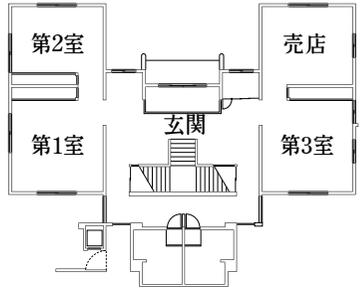
朝鮮半島の工芸品には素朴で愛らしい、おおらかな図案のものも多く見られます。柳宗悦もそうした朝鮮工芸に魅せられ、特徴ある絵柄のものが蒐集されています。今回は、染付・鉄砂・辰砂など絵付の施された磁器を中心に、朝鮮半島の陶磁器を紹介します。

〔第2室〕民藝運動の作家達

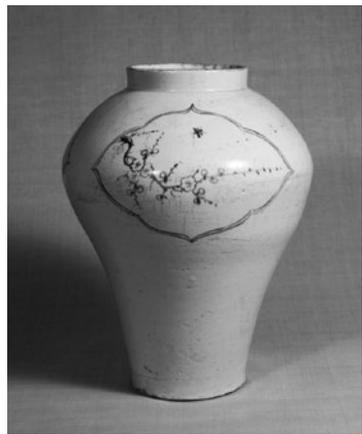
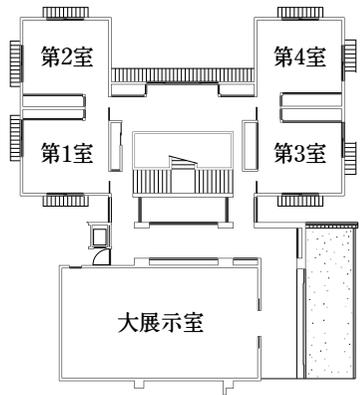
民藝思想に共鳴したバーナード・リーチ、河井寛次郎、濱田庄司、棟方志功。彼らは、柳宗悦のよき理解者として、また協力者として、民衆の日常品から美の本質を学び取り、自らの創作に活かしながら個人作家としての道を歩んでいきました。第2室では、この4人の代表作を紹介します。

〔第4室〕日本の諸工芸

当館には、民衆を担い手として花開いた、江戸時代後期の工芸品が最も多く収蔵されています。この展示室では、それらの中から刺子の技法による仕事着や、漆絵の盆や椀、螺鈿細工の箱、囲炉裏で用いる自在や横木、商家の看板、鉄瓶や燭台などの金工品を紹介します。



〔1階第2室〕染付蓮池釣人図鉢
景德鎮窯 明時代末期 17世紀前半



〔2階第1室〕染付窓絵梅文壺
朝鮮時代 18世紀前半 高 42.5 cm